

特集

夏休み 親子で家族で楽しもう!

# もっと知りたい西宮

本格的な夏がやってきました。暑さに負けず、夏休みを親子で、家族で楽しみたいですね。遠出するのもいいけれど、身近にも格好のスポットがたくさんあります。「西宮をもっと知る」をキーワードに紹介しましょう。

## ふるさとの歴史、文化伝える 山口町 郷土資料館

六甲北麓の自然のなかで特有の生活文化を織りなしてきた山口地域。郷土資料館はその文化遺産を後世にまで伝え残すために建設されました。散逸していた貴重な資料を収集し、展示しています。同館の山田義和さんの幅広い解説を聞きながら館内を回りました。分かりやすく興味を引いたのは、山口の伝統産業である竹細工、和紙、寒天の「一技と匠」コーナーです。ここでは、その名を国の内外に広めた竹箆づくりについて紹介しましょう。



艶色の光沢も美しい竹箆の数々

### 伝統の竹箆づくり ピーク時に80%が携わる

山口で竹箆を作り始めたのは江戸時代の中ごろ。有馬籠の名で知られ、温泉客の土産品に農家が副業として作っていました。特産産業として大きく発展したのは明治時代からです。外国との貿易が自由になって、茶を輸出する際、茶の容器の入れ物として利用

することが着目され、それをきっかけに古くからの伝統技術が評価されました。全国各地からすぐれた職人も集まっていました。

山口の竹箆の代表的なもの菱木箆です。

この地域に多い真竹は節と節の間が長く硬いために四角や長方形の箆の材料として適していた、といわれています。材料の部品ごとに規格化、分業化していたため、多くの人が製品作りに参加できました。家内工業として盛んになり、ピクニックバスケットやシャパンを入れる箆などとして海外にも輸出されました。

ピークの昭和37年には206軒が携わっていました。このほかに、下仕事や部品の加工など何らかの形で竹箆づくりに関係した家は、町域全体の80%近くに達していたといえます。しかし、その後プラスチックや段ボール製品が回るようになり、急速に衰退しました。

### 超リアルに人形で再現

菱木箆づくりの作業工程は、

- ①竹の水洗いと皮むき
  - ②こしらえ(材料作り)
  - ③組み上げ
  - ④フチ入れ
  - ⑤仕上げ
- となります。展示コーナーには、家族で竹箆づくりに励む様子がろう人形でリアルに再現されています。父親が熱を加えて曲げる、母親は竹の皮をむく、娘は編む作業です。山田さんによると、郷土学習のために訪れた小学生は、今にも動き出しそうな人形に、必ず驚きの声を上げるそうです。

山口町郷土資料館

山口町上山口2-11-27

(山口町徳風会館内)

☎078-904-3451